

教育・保育理念

・自分も友だちも大切に作る心の育成・学びの芽の育成・自分の可能性や能力の発揮

園の重点項目

一人一人を大切に、こどもが安心して過ごし豊かな育ちと学びを通して自己肯定感や主体性を育む

令和7年度重点内容

- ・感じる力、聴く力、話す力、を育てる
- ・こどもが安心でき、自分らしさの大切にされる環境を作る
- ・こどもを真ん中に地域や保護者、各機関や施設と連携し、学びと育ちにつなげる
- ・職員の資質向上を目指す

重点内容	重点内容に向けた具体策	評価項目	自己評価	こども園関係者評価
感じる力・聴く力・話す力を育てる	大人との関係の中で、様々な感情を共有し、受け入れられる喜び、伝わる嬉しさを経験し安心感を持てるようにする	・大人との関わりで愛着関係を築くことを土台に園児との関わりを育てる ・友だちとあそぶ楽しさをたくさん経験し、良いところを見つける ・自分の思いをだし、相手の思いもきいて友だちの中で認め合う経験を重ねる	A	A A A A
	保育教諭が豊かに言葉で子どもと対話し、感じたこと、思ったことを伝えることが楽しいと思えるようにする	・主体的に活動できる教育・保育を展開し、園児ひとりひとりが「みたい」「しりたい」「やってみたい」と心を動かして生活や遊びに取り組む。教育・保育の過程を保護者に伝える工夫をし、保護者と連携して園児の育ちにつなげる	A	
	年齢に応じて、こども園の職員や地域、ともだちと話す機会をもつ	・こども園や家庭で会話につながるような活動に取り組み、保護者にもむけて情報を発信する ・こども一人ひとりの発達を考慮し、こどもが主体となって話せる環境を整える	A	
大き、自分が安心できる環境にされる環境	心の健康と体力の向上を図り、しなやかな心と身体を育てる。	・安全に配慮し、体を動かして遊びたいような環境を作り、友だちと一緒に遊ぶ楽しい活動を、育ちのつながりを見通して、計画的に継続する。園児が主体的に取り組めるようにすることで、しなやかな心と体を育てる	A	A B
	健康で安全に生活することができるように安全教育をし、環境を整える。	・ヒヤリハットを見つける取り組みを重ね、過去の事故事例から学んで情報共有をし、安全教育に取り組むことで、大きな事故を防ぐ ・園児が危険に気づき、ブレーキをかけたり危険を避ける力を身につける	B	
者、各機関や施設地連携し、学	教育・保育の中で学びの芽を育てていく。	・0歳から大人との愛着関係を育てることを土台に、就学までの6年間を見通して、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識しながら、各年齢の生活やあそびの場で、園児の行動や言葉の中に学びの芽をはぐくむ	A	A A B A
	園の育ちと小学校の学びがつながるようにしていく。	・小学校の児童との交流・ふれあいの機会を持つ ・発達過程に応じ、個人差に配慮しながら発達を保障し、園の育ちと学校の学びをつなぐ	A	
	地域とともに地域の中で育つ。	・地域とかかわる小さなきっかけも大事にしてつながりを深める ・地域の行事に、園児と職員が参加し、地域との交流を持つ	B	
向職員をめ資質	子育て支援の拠点としてつながりを深める。	・地域親子や家庭的保育室などに遊び場所の提供をし、交流を図る機会を設ける ・地域に向けた子育て支援事業の内容でつながりを深める	A	
	職員がチームとして連携してこども園運営をする。	・教育・保育理念や方針、教育・保育課程や年間計画について職員同士が共通理解し、ねらいを明確に実践を楽しく展開する ・園児のこと、教育・保育のことをよく話し合い、園全体で職員間の連携を取り、園児への関わりを活かす	B	

今後の取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
架け橋プログラムを通した、学びの芽の育成	ワーキンググループへの参加とこども、職員ともに小学校との交流を通じた経験と学び
保育の質の向上	園内研修や各種研修の実施

園長より

この1年、教育保育に多くのご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。こども園は集団生活の場ではありますが、常に一人一人への寄り添いを意識した関わりを大切にしてきました。保育者との安心できる関係性を基盤にして、様々なことに興味を持ち、人と関わる楽しさを感じながら、こども達は大きく成長したと感じます。これからも就学に向けた道筋を保育者がしっかりと見通し、職員が一つのチームとして主体性を大切にする教育保育を実践できるよう、研鑽を積んでいきたいと考えています。